



12音のブックトーク 《あかね書房》 こまつ あやこ／作



みなさんは、学校や友達の前で“本当の自分”を出すのが怖いと感じたことはありますか？ありのままの自分を出すことで、人から嫌われてしまわないか不安に思ってしまう人もいるのではないのでしょうか。

この本の主人公の初奈も、中学校入【F913.6/コマ】学から、学校では猫をかぶって過しています。ある日、『もう猫をかぶりたくない』と本当の気持ちをノートに書いたところ、同じ年のユズナと入れ替わってしまいます。初奈は、入れ替わりとブックトークを通して、学校での自分の在り方について考え、クラスメイトとの関わりをつくっていきます。

ところで、タイトルにもある「ブックトーク」について、みなさんはご存じでしょうか。ブックトークとは、一つのテーマに沿っていくつかの本を紹介することです。作中のブックトークで紹介される本のほとんどは、現実でも出版されています。もし自分がブックトークをするならば、どんなテーマで、どんな本で行うのか、ぜひ想像してみてください。

「争い」入門 《亜紀書房》

ニキー・ウォーカー／著、高月園子／訳

突然ですが、皆さんは Nintendo Switch2 のネーミング、いいと思いますか？ダサいと思いますか？

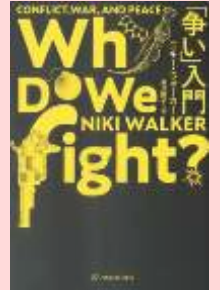
2号は Play Station みたいな正当進化感があると思うのですが、弟はダサいと感じたようで、互いに譲らない言い争いをしていました。

そんなどうでもいいような争いがあれば、重大な争いも世界には存在しています。ウクライナやパレスチナの情勢が不安定になり、毎週ニュースで戦況が報じられていますよね。

人同士の争いなら、最終手段として絶縁することができそうですが、領土が接する隣国同士の場合はそうもいきません。

この本では、なぜ人は争うのか、そしてどのようにして平和を目指していくのかを解説しています。

難しい国際紛争のニュースも、この本を読めばわかりやすくなるかも。



【319.8/ア】



RDG レッドデータガール はじめてのお使い[1] 《角川書店》 荻原 規子／著

中学3年生の泉水子^{いずみこ}が生まれ育った玉倉神社^{たまくら}は、山伏^{やまぶし}の修験場^{しゅげんじょう}として世界遺産に認定されている山深い場所。

特殊な家庭環境ですが、泉水子自身は引込み思案でまだまだ垢ぬけない普通の女の子。ただ、携帯などの電子機器を使用すると、壊れてしまうことが何度もあり、機械には苦手意識がありました。

ある日、パソコンを使う授業で泉水子は不思議な感覚になり、気づいたときには学校すべてのパソコンが停止していました。そこから泉水子の日常が大きく変化していくのです。

このシリーズは6巻完結。壮大な物語のはじまりです！



【TF913.6/オキ】



『ときめく文房具図鑑』 《山と溪谷社》 山崎 真由子／文、今野 光／写真

みなさんは愛用している文房具はありますか？私は、100円ショップに売っているボールペンを気に入って愛用しています。文房具は日常に欠かせないとても身近な道具ですよね。だからこそ機能性やデザイン、価格などこだわりのある人も多いのでは。お気に入りのものを使っていると気分が上がりますよね。

今回紹介する本では「書く」「書かれる」「消す」「切る」「測る」「貼る」「留める」の7つの観点から、定番アイテムや懐かしい文房具の魅力を紹介しています。他にも文房具ショップ探訪や、さまざまな職業の方の愛用文房具、文房具の豆知識、消しゴムはどうして消えるのかといったメカニズムについてまで盛りだくさんです。より文房具に愛着が湧くときめきの詰まった一冊です。

【2Fポピ H589.7/ト】





「嘘をつく」とはどういうことか

《筑摩書房》 池田 喬／著



「嘘をつく」ことは悪いことだと、小さい頃から教えられてきた人は多いのではないかと思います。では「優しい嘘」をつくことは、悪いことだと言えるのでしょうか。

この本では、「嘘をつく」ことについて真剣に考え、論じています。嘘をつくとは何をする事なのか、嘘をつくことの

【I383.8/シ】何が悪いのか、なぜ人は嘘をついてしまうのか…。普段はなかなかじっくりと考えないことではありますが、内容を追っていくうちに、嘘をつくときの自分の心理状態を暴かれているような感覚になりました。

個人的に一番はっとさせられた気づきは、嘘をつく前に嘘をつく以外の選択肢を考えるとということでした。冷静になって考えれば当たり前のことですが、叱咤の場面では見逃しがちなこの気づきを得たことは、大きな学びとなりました。

新書は固いことが書いてあるイメージが強いですが、身近なことをテーマにしているものから読んでみると案外すらすら理解できるので、オススメです！

スガリさんの感想文はいつだって斜め上

《河出書房新社》 平田 駒／著

自由研究と並ぶ夏休みの宿題の難敵の一つ、読書感想文。近年はガイドがあって書きやすくなっていると聞きましたが、本当なんでしょうか。

名古屋にある鶴羽学園の家庭科教師・直山京介は、美少女転入生・須賀田綴に「読書感想部」の顧問になるよう依頼されます。利害の一致により顧問となった直山の周囲では、感想文の題材となった図書の内容とどこかリンクした事件が起こり…？

タイトルの通り、スガリさんの読書感想文はほかの人とは異なる着眼点で驚かされます。題材にしている図書も、夏目漱石の『こゝろ』や新美南吉の『手袋を買いに』といった、みんな知っているものが選ばれているのでわかりやすいです！もし知らなくても本編の内容がわからない、ってことにはならないのでご安心ください！



シリーズもたくさん出ているので、題材になった本たちと一緒に借りて読んでみませんか？

【913/ヒ】



苦手から始める作文教室

(文章が書けたらいいことはある?)

《筑摩書房》津村 記久子／著

私は文章を書くことが苦手です。夏休みの宿題で出される読書感想文は、私の書いたあらすじでネタバレになるんじゃないか…と思ってしまい、あらすじを書き出せませんでした。好きな本や友達に勧めたい本はあるのに読書感想文となると本を勧めたい気持ちはどこかに行ってしまいます。

作文が苦手なまま大人になってしまいましたが、やはり文章を書く機会はあります。そこで、この本を見つけました。エッセイを読む感覚で読み進められるので、作文の苦手克服のために読むのはもちろん、隙間時間になんとか読んでみるのもいいと思います。

私は、日記をつける習慣はないけど、日常で思ったこと、すてきだと思った言葉、やりたいこと、行きたい場所などは書いていきたいなと思っています。(なかなか続かない) そういうメモを数年後見返して楽しい気持ちになったことがあるので、書くって大事だなと思います。

【861/ニ】



豆の上で眠る

《新潮社》湊 かなえ／著

小学一年生の時、神社からの帰り道で結衣子の二歳上の姉・万佑子が失踪した。家族で必死に探すも消息をつかめないでいたが、二年後、姉は帰ってきた。しかし喜ぶ家族の中で自分だけが、大学生になった今も拭えない違和感を抱いている。はたして姉は本物なのか。

現在と過去の話が交差しながら物語は真相へと進んでいきます。自分だけが違和感を抱いているという状況が孤独でとても怖いですね。ミステリーを読みたいかたにおすすめです。また、物語に登場するアンデルセン童話『えんどうまめの上のおひめさま』も図書館に所蔵されていますので、気になるかたは読んでみてください。

【2F ポピ F913.6/ミナ】





後宮の検屍女官

《KADOKAWA》 小野 はるか／[著]



舞台は大光帝国の後宮。後宮内では、次期帝の太子を生んだ皇后の派閥と、現在帝の寵愛を受ける妃の派閥に二分されていた。後宮内で話題の「死王」の噂を沈静化するため奔走する、皇后派の宦官の延明は、検屍の心得がある寵姫の侍女・桃花と出会う…。

【B913.6/オノ】 ここまでのあらすじを見ると、「ああ今流行りの中華風後宮×ミステリか」と思われるかたも多いはず。そのとおり、後宮のドロドロとした人間関係の裏に起さる死の謎を解いていく物語です。しかし、面白い設定はやっぱり面白いのも事実です。

この本特有の設定である、検屍の描写も興味深いですが、1号は特に食事の描写がお気に入りです。延明と桃花は事件を解決するたびに食事を共にするのですが、文面からほかほかと湯気が立ち上がってきそうなくらい美味しそうに食べ物が描写されていて、秘かな飯テロ本となっています。もちろん、延明と桃花の関係性の微妙な変化も、ニヤニヤしちゃうこと間違いなし。既刊7巻のうち6巻まで中央図書館で所蔵しています。続きが気になるかたはぜひリクエストを！

ジェラート、アイスクリーム、
シャーベット 完全版
《主婦の友社》 柳瀬 久美子／著

2号さ～ん！

はい！

何が好き？

チョコミントよりも利用者さん！
ということで AiScReam さんの「愛
♡スクリーム！」が激バズしているら
しいと聞いたのですが本当ですか？

なんせ2号は TikTok やってないので流行の最先端とかわからないの
じゃ…。short 動画は YouTube Short だけでおなか一杯じゃよ…。

2号のおじいちゃんトークはさておき、アイスといえば、まだ梅雨入りもしていないのに急に暑くなって、アイスを買ったって人も多いんじゃないでしょうか？

既製品のアイスもおいしいけど、たまには自分で作ってみるのもアリかも。

この本では、アイスクリームメーカーなしで作れるアイスのレシピが載っているので、ぜひチャレンジしてみてください！



【H596.6/シ】



天使と悪魔 [上・中・下]

《角川文庫》 ダン・ブラウン／著

先日、ヴァチカンで数年に一度しかない出来事があったのを知っていますか？そう！皆さんもご存知のコンクラーベです！無事に新たな教皇が選出されましたね。この本はコンクラーベが開かれているヴァチカンとローマを舞台にした観光ミステリです。

物語は宗教象徴学者のラングドンのもとにスイスの研究所から電話がかかって来ることから始まり、徐々にヴァチカンとイルミナティの戦いに巻き込まれていきます。暗号を解き明かし暗殺者から4人の次期教皇候補を救うことができるのか。無事、時間までに隠された反物質を見つけ出すことができるのか。一体、裏切者はだれなのか。次々に現れる謎を前にラングドンらはどうするのか、最後の最後まで目が離せません。

私が読んだのは高校生の時でしたが、コンクラーベのニュースを見て久しぶりに読み返しました。中央図書館には今回紹介した文庫の他に、単行本、英語版、ポルトガル語版も所蔵しているので語学の勉強にもオススメです！



【2F ポピ B933.7/7ラ】



My Room

《ライツ社》 John Thackwray／著

皆さんはどんな部屋で暮らしていますか？私は部屋紹介の動画を観るのが好きなのですが、部屋にはその人の性格や価値観、個性が表れますよね。

フランス人の著者が6年かけて世界を旅し、55カ国、1,200人の部屋を写した「My Room」プロジェクト。この本はそこから84名の部屋を掲載した写真集です。どの部屋もとても個性的で、その国の文化や住人の趣味、生活が垣間見えます。全ての部屋が同じアングルで撮影されているので、一目瞭然で違いが分かるのも面白いポイントです。

インタビューも載っていて、生い立ちや悩み、将来のことなど、住人が抱えている思いを知ることができます。また、その国の文化や社会情勢、人口、平均月収、公用語も知ることができるので海外に興味があるかたにもオススメの一冊です。

【1F レフ 748/マ】





10代からの文章レッスン

《河出書房新社》

小沼 理／編著，安達 茉莉子／[ほか] 著



【816/シ】

この本の中での「文章」とは、学校の作文や論述のことではなく、物語やエッセイなどの創作の文章のことを指しています。作家やエッセイスト、好きな文章を書いてみたいかたに向けて書かれた本です。

こう紹介してしまうと、何だか物書きになりたい人だけに刺さる内容なのかと思われてしまいそうですが、文章を読むことが好きな人にぜひ読んでほしい内容だと思い、今回紹介することにしました。文章を発表しているいろんなジャンルの人が、「文章を書く」ことについて教えてくれているのですが、その執筆の過程や考えていることを赤裸々に明かしてくれています。読み物の形として文章が提供されるまでの間に、作者ごとに本当に様々なことを経て、読者である私たちに届けようとしてくれているのだと気づかされました。とってもチープな言い方ですが、めちゃくちゃ感動しました…！読後はきっと、もっと大事に文章を読みたくなる、そして文章を書き始めるための後押しをされたような気持ちになると思います。

くちびるに歌を

《小学館》 中田 永一／著

学校生活を送っていると、文化祭や卒業式などで、何度か合唱をするタイミングがあると思います。皆さんは、そんな合唱に対して真面目に取り組む人ですか？それとも、嫌々やるタイプ？

真面目にやる人からすると、練習中にふざける人にすっごくむかつくんですね。逆に、嫌々やる人は「たかが合唱じゃん」みたいに思ってて、結局先生に真面目に取り組むよう怒られて…。なかなかこの溝って埋まらないんですよ。

この小説に登場する中学校の合唱部も、産休代理の臨時の顧問、柏木先生にひかれて入部した男子と、元からいた女子で対立が起きてしまいます。

課題曲になった「手紙～拝啓十五の君へ～」にちなんで出された、「15年後の自分へ手紙を書く」という課題。部員それぞれの手紙が、合唱部に波乱を巻き起こします。

14年前に出版された古い本ですが、その分たくさん借りられている名作です。読書感想文にもいかがでしょうか。



【F913.6/ナカ】



『「名著」の読み方』

《ディスカヴァー・トゥエンティワン》

秋満 古彦／著

この本のタイトルにもなっている「名著」って一体何でしょう？有名な本？古くて難しい本？電子書籍は「名著」になりえないの？気になったかたは辞書等で調べてみてください。今回紹介するのは名著に限らず、少し読みにくいと感じる本を読みやすくするテクニックが著者の実践例とともに紹介されています。既に本を多く読んでいる人。読むのが苦手だという人。どちらのタイプにも役立つアイデアが詰まっています！

その中でも私がお勧めしたいのは第2章の「本を汚す」という読み方。図書館の本はキレイに使ってほしいので直接書き込むのではなく、メモを挟んだりしてもらいたいのですが、A・B・Qを目印にすることで理解の解像度を上げようという方法です。読書感想文や長めの文章題を解く際にも使えるので、夏休みの宿題がまだ終わっていないという人は試してみてください。

巻末で紹介されている名著はどれも図書館に所蔵があるので、気になるものがあれば読んでみてください。



【1Fレファ 019.1/×】



あっあつを召し上げれ

《新潮社》 小川 糸／著

皆さんは思い出に残っている食べ物や料理はありますか？家庭の味やお店の味など、誰しも一つは忘れられない思い出の味があるのではないのでしょうか？

この本は、そんな忘れられない味を巡る7つの物語を描いた短編集です。10年以上つきあった恋人との、お別れ旅行で味わった最高の朝食。幼い頃、今は亡き母から伝授してもらった、おいしいおみそ汁のつくり方。よく家族で食べに行った中華料理屋のぶたばら飯。家族みんなで並んでやっと思えることができた、天然氷でつくった富士山のようなかき氷…。

食べ物の描写がとても美味しそうなので、読み進めるうちにお腹が空いてしまいます。美味しいものを誰かと食べる時間の大切さを感じられる一冊です。



【ポピ B913.6/オカ】



ネバーブルーの伝説 《KADOKAWA》 日向 理恵子／著



発生原因不明の災害によって、周辺国が次々と壊滅しているアスタリット王国。主人公のコボルは、アスタリット王国で写本土見習いとして働いています。後世へと文化をつなぐため、災害にあった隣国へ本の救出に向かったコボルたち写本土でしたが、そこで予想外の出来事に巻き込まれてしまいます。

【TF913.6/ヒナ】

写本土であり、声を発することができないコボルにとって、文字を書くことはとても大切な行為です。作中に文字を書く描写は数多く出てきますが、きっと私たちが普段書く文字にもその時々的心情が表れているのだなと思いました。

ファンタジーならではの、魅力的な生きものや道具が多数登場する本作。1号はできるならば、写本土たちがもつペンに触ってみたいです。

この本の続編は8月に発刊され、YAで所蔵しています。著者は他にも「火狩りの王」シリーズや『いばらの髪ノラ』など、ファンタジーを多数書いています。秋の夜長に、上質なファンタジーの世界に浸ってみるのもおすすめです。

本が読めない33歳が国語の教科書を読む 《大和書房》 かまど／著、みくのしん／著

衝撃の前作から1年、あの自由な読書が今度は国語の教科書を手に帰ってきました！

2号は前作でも言っていましたが、一度騙されたと思ってまず読んでみてほしいです！まるで読書の実況プレイかのように一行ごと、一文ごと挟まれるみくのしんさんのリアクションが面白くて、リアクション見たさについついページをめくってしまいます。

かまどさんも本の中でたびたび驚いていますが、自分になかった視点をもたらししてくれるので、まさに衝撃。

読んでいる作品も国語の教科書に収録されているものなので、前作よりも共感しやすいかも！？

読書好きはもちろん、読書が苦手な人も、この本なら本への苦手意識を少しずつ解消するにはぴったりなので、本当にまずは騙されたと思って読んでみてください！！



【019.0/ホ】

かまど 著 みくのしん 著『本が読めない33歳が国語の教科書を読む やまなし・少年の日の思い出・山月記・枕草子』(大和書房刊)



タイムマシンでは、行けない明日 《集英社》 畑野智美／著

皆さんはやり直したい過去などありますか？失敗を無かったことにしたい、もう会えない人ともう一度話したい…。私にはやり直したいことが多々あるのですがタイムマシンがないとできませんね。この本にはそんな夢をかなえてくれるタイムマシンが登場します。

主人公の丹羽君にはどうしても戻りたい過去がありタイムマシンの研究をしています。そんなある日部屋の見慣れていたものが実はタイムマシンだったことが判明します。最初は半信半疑だった丹羽君は実際に触れることで、本物のタイムマシンではないかと実感します。果たして丹羽君は無事に過去に戻るのか、望む未来にたどり着けるのか、一体どうなるのでしょうか？

また、過去と現在、未来の人間関係を考えながら2周目を読むのもおすすめです！



【2F ポピ F913.6/ハタ】



世界の家の窓から 《主婦の友社》 主婦の友社／編

家の窓からはどんな景色が見えますか？前々回(Vol.110)に世界の部屋を巡る写真集を紹介したので、今回は窓からの景色を巡る一冊を紹介します。

新型コロナウイルスの影響で、各国で隔離政策やロックダウンが始まり、自宅の窓からのたったひとつの景色をみることしかできなくなった2020年。ベルギーのグラフィックデザイナー、バーバラ・デュリオさんは世界中の人々が「自宅の窓からの景色」と、それにまつわるエピソードを投稿するサイトを立ち上げました。

この本にはその中から、世界77ヵ国201人の写真とエピソードが収録されています。個人的には動物園でもあまり見かけない動物たちが、景色の一部として存在している写真が驚きで面白かったです。様々な窓からの景色とそこに添えられた言葉を通して、その土地の暮らしや、そこで暮らす人々の日常・人生に思いを寄せてみませんか？



【2F ポピ G290.8/セ】